

しずおかの里地と人をつなぐ

里風通信

さとかぜつうしん

農山村と企業・大学の連携が広がっています

多様な主体と「協働」する邑づくり

vol.

11

令和2年(2020)1月

里風通信

satokaze tsushin 2020



魅力や資源がいっぱいの農山村地域で、一緒に活動してみませんか? P01

企業と農山村をつなぐ「むらづくりワンストップ窓口の紹介」 P02

静岡鉄道株式会社×はばたけ大川 P03

静岡茶の始祖「聖一園師」が紡いだ縁で遊休農地の活用に取り組む

日本生命保険相互会社 静岡支社×ふじのくに美しく品格のある邑 P05

邑の特産品を購入することもサポートのひとつの形

農山村の人たちも参加しています。新たな出会いがあるかも。

企業・大学のみなさん

窓口には県の地域づくりアドバイザーや、環境学習コーディネーターが在籍しています。

むらづくりワンストップ窓口によるこぎ

「これから農山村で何か一緒に取り組みたい」と思ったら、お近くの「むらづくりワンストップ窓口」にぜひご連絡ください。農山村地域の特産品の活用、農山村での福利厚生、農山村との体験学習や社会貢献、地域課題のビジネス化などワンストップ窓口がアドバイスやマッチングをお助けします。



中部地区で行われた「まーけていんぐ基礎講座」

販売促進研究所 代表取締役 杉山浩之さんを講師に迎えました



西部地区で行われた「手描き広報のススメ!」

書道家の松竹由紀さんを講師に迎えました

情報発信

旬な農山村の情報を無料で「むらサポ」のホームページやFacebookで広報します。

【情報内容の例】

- ・農山村でイベント開催
- ・ボランティア募集
- ・農産物販売の開始 etc...

連携支援

外部人材の連携支援 各種ノウハウや知恵を持った人たちをご紹介します。

【情報内容の例】

- ・新たな特産品開発
- ・地域を盛り上げる仕掛け
- ・農家民宿を始めたい

各種相談

ご相談いただければ、無料で一緒に考えます。

【相談内容の例】

- ・地域づくり研修企画
- ・特産物の開発
- ・農山村移住
- ・農山村の6次化
- ・農山村とのマッチング

むらづくりワンストップ窓口

地域づくりに役立つ研修会や相談会、地域交流会を年に数回開催します。

参加無料

伊豆地区	特定非営利活動法人 NPOサプライズ 伊豆市修善寺75 ドットツリーオフィス	☎0558-99-9120(平日9時~16時) アドバイザー:飯倉清太氏
東部地区	特定非営利活動法人ホールアース研究所 富士宮市下袖野165	☎0544-66-0790(9時~17時) アドバイザー:山崎宏氏
中部地区	一般社団法人 SACLABO 藤枝市若王子705-2	☎070-5332-3955(9時~18時) アドバイザー:渡村マイ氏
西部地区	浜松市市民協働センター (浜松市民協働サポートグループ) 浜松市中区中央1丁目13-3	☎053-457-2616(9時~21時30分) ※12月29日~1月3日を除く アドバイザー:山内秀彦氏

「ふじのくに美しく品格のある邑」に関する情報はこちら



ふじのくに
美しく品格のある邑
Charming and Graceful Villages in "FUJINOKUNI"



公式ウェブサイト



公式Facebook

美しく品格のある邑

公式ウェブサイト
<http://www.fujinokuni-mura.net/>
公式Facebook
<https://www.facebook.com/muradoki/>

静岡県内の農山村の旬な情報や企業との連携事例などの情報はこちら



しずおか
農山村サポーター



公式ウェブサイト



公式Facebook

しずおか むらサポ

公式ウェブサイト
<https://www.shizuoka-murasapo.net/>
公式Facebook
<https://www.facebook.com/shizuokamurasapo/>

企業と農山村をつなぐ 「むらづくりワンストップ窓口」のスタッフを紹介します!!

- 1.どんな方が相談に来ていますか? 2.これまでにどんな相談を受けましたか?
3.窓口業務での実績を教えてください 4.どんな研修会を行っていますか? 5.窓口から一言

東部地区

特定非営利活動法人ホールアース研究所
富士宮市下柚野165
☎0544-66-0790 (9時~17時)



- 2018年10月より東部地域の窓口として活動しておりますが、担当地域内外から相談をいただいております。「ふじのくに美しく品格の邑」で実際に活動している方も、一般企業の方からも相談をいただきました。
- 「地域の人材育成について」や、「地域を元気にするイベントをやってみよう」などの相談をいただいております。最近では、「クラウドファンディングに挑戦してみたい」など、地域でもっと頑張りたい!という方からの相談も増えているように感じます。
- 富士宮市で活動をしている「天子ヶ岳の里」の皆さんから、「彼岸花の写真コンクールをやってみよう」との相談を受けました。広報のことや、応募作品の展示のこと、表彰式についてなどサポートをし、蓋を開けてみると100点を超える応募があり、想定をこえる反響がありました。11月17日には富士宮市半野区民館にて表彰式も行われました。
- パノラマ遊花の里と、沼田ロマンチック街道の取り組み説明と視察、そば打ち体験ができる「たぐみの郷」をバスで回りました。
- 静岡県には、素晴らしい文化・景観・農作物がたくさんあります。それを「どう活かそう?」「どう発信しよう?」などお困りの方はお気軽に相談にお越しください。

伊豆地区

特定非営利活動法人 NPO サブライズ
伊豆市修善寺75 ドットツリーオフィス
☎0558-99-9120 (平日9時~16時)



- 地域で活動されている方はもちろん、企業の経営者や行政の方、視察には大学の先生がいらっしゃることもあります。
- 農産品の販路拡大、イベントの企画、情報発信についてなど多岐に渡ります。
- 生産者さんから、生産していたイチゴの苗が病気でほぼ枯れてしまった...というご相談の時にクラウドファンディングで資金を集めると同時にイチゴの宣伝をする方法をお伝えしました。実際にクラウドファンディングに挑戦した事例や、施設のリニューアルオープン時に広く地域の方の声が聞きたいというご要望にお応えしてママさん世代のグループとお繋ぎして意見交換できた事例等、こちらも多岐に渡る相談内容により様々なアウトプットがあります。
- 写真の撮り方講座や、農山村活性化の解決に向けて、「伊豆食べる通信」の取り組みを紹介する研修会を行いました。
- お気軽にご相談ください! 遠方の方はE-mailでも。cityizu@gmail.comです!

中部地区

一般社団法人 SACLABO
藤枝市若王子705-2
☎070-5332-3955 (9時~18時)



- 地域で商品開発に取り組む農家さんや、地域で活動している団体や個人の方、山間部の施設や個人事業主の方、地域おこし協力隊など、美しく品格ある邑に登録されている地域の方々はもちろん、登録されていない地域からも相談があります。
- 民泊開業や農産物の販売ルート開発・新商品開発の相談。地域活動団体の組織運営や女性参画の推進について。地域と連携した施設運営について。移住促進や、恒例イベントの見直しとブラッシュアップの仕方。情報発信については、チラシ以外の告知方法や SNS の活用などの相談を受けています。
- 相談施設のお土産品開発にあたって、静岡県のマーケティング課の制度である「6次産業化アドバイザー」派遣制度の利用につなぎ、施設への全3回のアドバイザーの派遣が行われました。
- 都内での広報実績のあるゲストを講師に迎えて「はじめての広報セミナー研修会」や、特産品の販売・開発について学ぶ「マーケティングの基礎講座」を行いました。
- 地域には、地域をなんとかしよう!と熱意のある方や試行錯誤して活動している方、それぞれの分野で新たな試みにチャレンジする方が多くいらっしゃいます。各地域でお悩みの方はもちろん、地域連携を考えている企業の方も。お気軽にご利用ください。

西部地区

浜松市民協働センター
(浜松市民協働サポートグループ)
浜松市中区中央1-13-3
☎053-457-2616 (9時~21時30分)
※12月29日~1月3日を除く



- 邑や企業のCSR担当者などから相談をいただきました。
- 美しく品格のある邑に登録されている地域の方からは、地域資源の活用方法や広報、イベント運営などの相談を受けました。企業からは、CSR活動として「どのようなことをしたらよいか」「なにかできることはないか」といった相談がありました。
- 企業の要望と、邑の課題を照らし合わせながら、企業と邑のマッチングをご提案しています。実際に、邑が実施している遊休農地を活用した田んぼプログラムに、企業が参加しました。
- 12月に筆ペンを使ってチラシを作れるような「手書き広報のすすめ」という研修会を、2月には研修兼交流会の開催を予定しています。
- どのようなご相談でも構いません。皆さまのニーズや課題と寄り添いながら、一緒に考えていきたいと思っています。ぜひお気軽にご相談ください。

魅力や資源がいつぱいの農山村地域で、一緒に活動してみませんか?

静岡県内には、「持続可能な美しい農山村地域」を目指す「ふじのくに美しく品格のある邑」が133地域あります。農山村地域では、急速な人口減少や高齢化が進み、様々な課題がありますが、一方でたくさんの自然や食などの魅力や地域資源があふれています。企業・団体のみならず、農山村の課題解決への支援や、地域資源を活用した経済活動などに、一緒に取り組んでみませんか!

70%の農山村が、美しい自然や景観の保全を危惧しています!



40~50%の農山村が、広報や特産品、農村体験の開発に関心を持っています!



30~40%の農山村が、企業や大学との連携に積極的に取り組みたいと思っています!



農山村地域の宝は美しい景観や、心のよりどころとなる里山の風景。多くの地域が自分達の地域の景観に誇りを持ち、その環境を未来につないでいきたいと考えています。しかし、高齢化等により保全活動が難しい地域もあり、人手の確保や活動の継続が課題となっています。このような課題を抱える地域では、農山村の人々と連携し、一緒に活動を行なってくれる企業や団体を求めています。



テレビやラジオなどのマスメディアを通じて、地域のことを知ってほしい! もっと関心を持ってほしい! そんな気持ちが農山村にはあります。また、地域の資源を活かした特産品の開発や、農業・農村体験の開発によって、地域の経済を活性化させ、PRするため方法を探しています。広報や特産品開発など企業の強みを活かし、一緒に活動してくれる企業を探しています。



農山村では、自分たちの地域と「継続的に」「発展的に」関わり、交流してくれる企業や学校を求めています。マンパワーでのサポートやアイデア提供、交流による元気の創出など、地域の外から関わってくれる人たちの力は大きく、交流を通して地域課題解決へのヒントや、活力をもたらしてくれます。農山村との交流は、社員研修の場として活用でき、地域の方と交流しながら、互いに学びあいや高めあいのチャンスでもあります。





11月の月上旬に在来蕎麦収穫の協働活動が行われました

蕎麦収穫を行いました。家族で参加している社員さんなど、子どもたちも楽しそうに作業をしていました。蕎麦収穫をした田んぼは、所有者の高齢化に伴い続けることが難しくなっていました。一社一村しずおか運動を通して蕎麦等が育てられています。作業には新入社員が多く参加しているため年齢は若く精力的に活動でき、「遊休農地の活用ができるようになったし、人手が増えてたくさん農作物が育てられるようになりました」と、大川地区自治会連合会会長 中村満さんなかむらみつるは嬉しそうに言います。田んぼや稲刈り、お茶摘み体験などを協働で行い、収穫したお茶は製茶をしてお土産として持って帰ってもらっています。

今後の活動について中村さんは「来年以降は同じ活動と、もち米や蕎麦、お茶などの栽培量も増やしたいと思っています。また大川の本山茶やわさびを使ったチョコレトを作った売り出しも始めたいです。そちら



静岡鉄道株式会社 人事部人材開発課 剣持瑞恵さん

静岡茶の始祖「聖一国師」が紡いだ縁で 遊休農地の活用に取り組み

「聖一国師の縁」で協働をスタート

静岡県葵区坂ノ上等8つの地区で構成されている大川集落では、大川地区自治会連合会が農作物の栽培や農地保全などの取り組みを行なっています。活動を始めたのは、2008（平成20）年のこと。大川地区と静岡鉄道株式会社とは、2018（平成30）年に協働で活動をはじめ、2019（令和元）年の5月に一社一村しずおか運動の認定がされました。

協働で活動することになったきっかけは静岡茶の始祖であり大川出身の「聖一国師の縁」と、両者が口をそろえて言います。また、静岡鉄道はもともと静岡で採れたお茶を清水港へ輸送した鉄道事業から始まった会社ということもあり、聖一国師に関するイベントも精力的に行なっています。その中で、博多祇園山笠で使われる清い水をくむ「水汲みの儀」の開催時に、大川地区の代表者から静岡鉄道に一社一村しずおか運動の提案がありました。

もぜひ協働活動を通じて広めていきたいです」と言います。

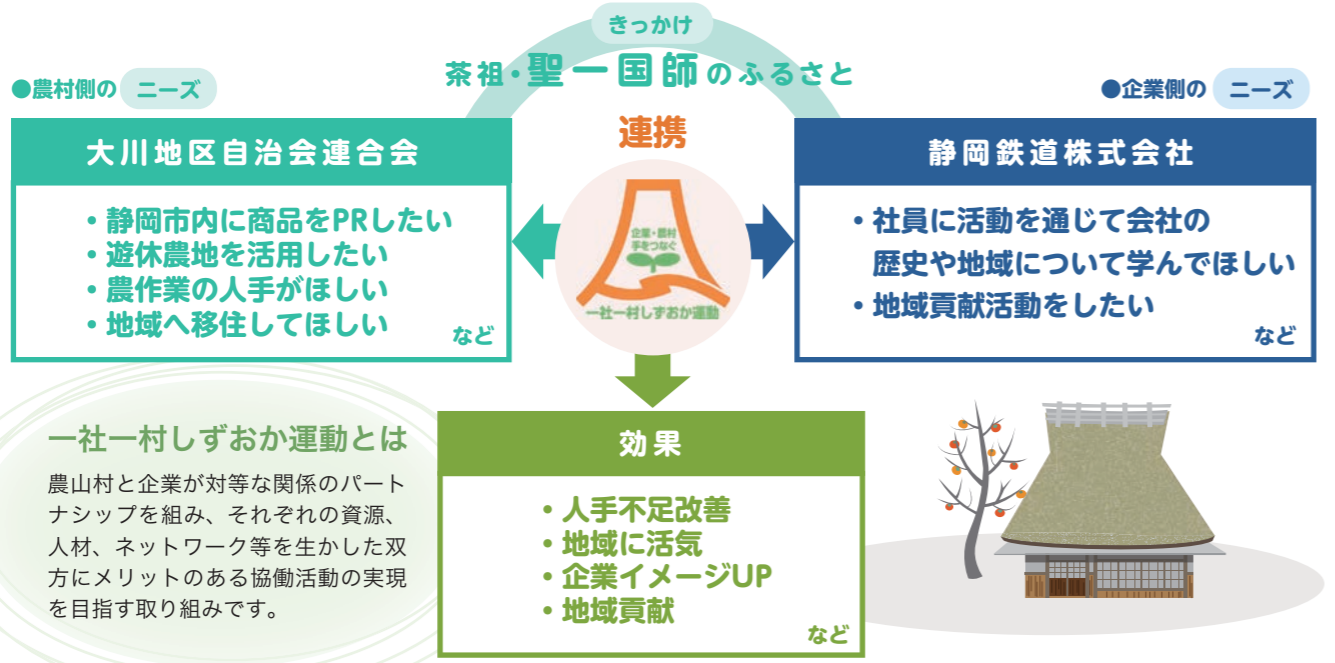
ゆくゆくは大川に定住してもらいたいという目標があり、多くの人に大川の魅力を知ってもらうために一社一村しずおか運動に取り組んでいるとのこと。目標に向けて一歩一歩と進んでいます。



「聖一国師」とは
僧侶として最高の荣誉である「国師」の号を日本で最初に贈られた高僧であり、静岡茶の始祖と伝えられている人物。1202（建仁2）年に駿河国阿倍郡大川村栢沢（現静岡市葵区）に生まれ、宋に渡って禅宗の修行に励み、中国から持ち帰った茶の実を足久保にまいたと言われています。



「OKAWA chocolate」とは
大川企業組合と、チョコレート専門店「コンチェ」の共同開発で作られたトリフチョコレートは、煎茶、ほうじ茶、ワサビの3種類の味が楽しめます。素材の味や香りがしっかりと引き出された上品な商品。3粒入り1,300円。



「昨年1年間協働で活動し、今年も活動を継続しようと登録しました」と人事部人材開発課の剣持瑞恵さんけんもちみずえは言います。社内では、一社一村しずおか運動に登録したことで大川地区に対する理解が深まり、役に立っているという実感や地域貢献をしているという意識が生まれているそう。



大川地区自治会連合会 会長 中村満さん

遊休農地活用のマンパワー

静岡鉄道での協働活動は、農作業を通して行われています。1年目は10月に稲刈り、11月に蕎麦収穫を行い、2年目は5月にお茶摘み、11月に蕎麦収穫が行われました。今回取材した11月の活動日は10名の静岡鉄道の社員と、9名の大川の方が集まって

邑の特産品を購入することもサポートのひとつの形



景品として揃えられた果物ジュースやクラフトビール、菓子などの邑の特産品

包括連携から農山村サポートへ

日本生命保険相互会社静岡支社が「むらサポ」に登録したのは2019（令和元）年春のことでした。もともとは、日本生命静岡支社と静岡県が2018（平成30）年の8月に包括連携協定を結んだのがきっかけです。包括連携協定とは、幅広い分野で連携し、健康で豊かに暮らせる環境づくりと、静岡県の活性化および県民サービスの向上に取り組むことを目的とした協定です。この項目に沿って静岡県庁の各部署と連携を行います。今回は「県産品の販路拡大や地産地消の推進、地域産業の推進」という取り組みを行うにあたり、ふじのくに美しく品格のある邑とのマッチングが決まり、「むらサポ」への登録に至りました。

邑の特産品を景品に活用

日本生命静岡支社の「むらサポ」での活動は、自身が主催する顧客向けゴルフコン

への景品として、「美しく品格のある邑」に登録している地域の特産品を活用しています。「美しく品格のある邑の多彩な農産物・特産物を毎回数種類紹介していただき、その中から、いくつかの特産品を購入し、景品として参加者にお渡ししております」と、日本生命静岡支社の担当部長の山名達人さんが教えてくれました。

取材に伺ったゴルフコンペの当日、会場には沼津市西浦で採れたスイートレモネードの果汁を使ったジュースや、函南町丹那にある酪農王国オラッチェのドーナツやクランチなどのセット、富士宮市白糸の棚田のこしひかりなど、地域の特色や魅力のある特産物が景品として並べられています。「今回は参加賞として沼津市西浦で採れる寿太郎みかんのジュースを参加された皆さんにお渡ししました。ゴルフコンペはシーズンで2回ずつ行い、こちらに並んでいる以外にも、今年の春には静岡市梅ヶ島・大代のしいたけと富士宮市柚野の地域の産物

を材料にしたクラフトビールのセットを取り入れました」と山名さんは言います。

より多くの人に特産品を知ってもらおう工夫を

「景品は、受け取ったお客さまに喜んでもらえることを一番に考えています」と言うように、ていねいに選んだ品々は参加者から大好評。特に、現地に行かなければなかなか手に入れることができないものを選ぶように心がけているそうで、身近にある



日本生命 静岡支社長 土屋雄一郎さん（左）
担当部長 山名達人さん（右）

特産品や邑の素晴らしさに気づききっかけになってほしいとの思いがあります。これらの景品を渡す際には、その特産物が作られた邑の情報が紹介されたパンフレットと「むらサポの募集チラシ」を一緒に配布するなどの気遣いも忘れません。「私たち静岡支社の職員のみならず、管轄の静岡中部エリアの企業経営者の方などが参加してくださるコンペを通して邑の特産品を知ってもらえたら、より多くの人が興味を持ってくださる。そうやってサポートの輪が広がっていくことが理想ですね」と静岡支社長の土屋雄一郎さんが語ってくれました。

転勤が多く、静岡県外から来ることも多い日本生命の社員さんにとっても、景品を選びながら静岡の特産品や魅力を知ることができていると言います。また、季節ごとの旬の特産品を手にして実際に味わったり、地域のことを知ること、邑に興味を持ち現地に足を運ぶきっかけ作りにもなっているようです。

「むらサポ」と一言で言ってもサポートの方法はさまざま。邑の特産品を購入し活用することで、会社のネットワークを媒介して邑の魅力を伝えていくことも、企業と邑々をつなぐ大切なサポートとなっています。

日本生命×邑 しずおか 農山村サポーター むらサポ

- 日本生命保険相互会社
- ・静岡県と包括連携協定を締結
 - ・むらサポに登録
 - ・具体的な活動・支援内容について検討
 - ・まずは出来ることからスタート

- ワンストップ窓口^(※)や農地保全課へ相談
- ・邑の特産物・農産物の紹介リスト作成の提案
 - ・邑の紹介パンフレットを作成

- 邑への効果
- ・地域を訪れるきっかけ作り
 - ・新たなファンの獲得
 - ・邑の特産物・農産物の売上増



※ワンストップ窓口とは農山村に関わる各種相談やイベント等の情報発信を行う窓口で、県内4カ所に詳しくはP02をチェック